



らいぶらり えひめ

Library Ehime

2020(R2)10.1 発行

No.236

愛媛県立図書館報

図書館の時間

愛媛県立図書館長

願成寺 優

「今日が私の一日なら、私はいつもと変わらない一日を過ごすだろう。今日が君の一日なら、君といつもと変わらない一日を過ごすだろう……」この後、「君」の部分は、「友達」、「父」、「母」と変わっていく。朝ドラ「スカーレット」の主人公の女性陶芸家喜美子の息子、武志の言葉。自らの死を意識せずにはいられない武志の「いつもと変わらない一日を過ごしたい」という心情と「いつもと変わらない一日は、特別な一日」という作品のテーマがぐんぐん響いてくる言葉であった。あたり前の生活、あたり前の人間関係、あたり前の時間の流れがどんなにありがたいものかは、どうやら失われて初めてわかるものらしい。「新型コロナウイルス」によって、世の中はどう変わっていくのだろうか。今までのあたり前の時間がいくつも失われ、「いつもと変わらない一日」という幸せの価値観まで変わってしまいそうである。

愛媛県立図書館には「それぞれの時間」が流れている。『子ども読書室』では親子で読み聞かせ。幸せな家族のほのぼのとした時間。『学習室』では黙々と勉強。一人の世界に没頭する深くであつという間に過ぎ去る時間。『一般図書室』では静かに読書。物語の世界にはまり込んで、先を急ぐ旅をしているかのような時間や、情景・心情描写に行きつ戻りつ、いろいろなことを連想して、道草を楽しんでいるかのような時間。『えひめ資料室』では、専門的な調査・研究。情報を手に入れながら階段を一步一步登っていくような時間。すべては、本が与えてくれる豊かな時間。図書館で過ごす人々の時間はそれぞれのペースで流れていくが、その「時間の流れ」が与えてくれる「豊かさ」は、すべての人に平等である。ぜひ、図書館で豊かな時間を過ごしてほしい。図書館に存在するたくさんの「言葉」があなたの人生を豊かなものにしてくれる。ただ、忘れてはならない、欠かせないもの。それは「感受性」。言葉は感受性によって輝きを増し、心に刻まれる。そして、刻まれた言葉を繰り返し繰り返し考えたり、口に出したりすることで、その言葉の魂が自分の体の中に溶け込み、豊かな人生が彩られていく。図書館において「感受性」とは「素敵な言葉に出会いたいという思い」とでも言い換えられようか。ぜひ、図書館で魅力ある言葉に出会ってほしい。

「レファレンス」というのは図書館用語である。図書館に勤めて初めて出会った言葉だ。意味は「図

書館が行う利用者サービスの一つで、必要とする文献や参考図書についての情報を教えたり、検索に協力したりするもの（『三省堂新明解国語辞典』）である。図書館司書ならではの専門的な領域の仕事だ。昨年度「えひめ資料室」に寄せられたレファレンスを一部紹介する。「河辺村史にある人麻呂の墓、古老の言い伝えなど」「道後にあった自性寺（廃寺）について」「西条藩の砲術流派、砲術師範について」「松前町の地名『牛飼原』が出てくる資料」「地震雷火事おやじの説明」……。多種多様な好奇心と向学心にあふれた利用者のレファレンス。司書は簡単な質問には回答となる情報そのものを提供したりもするが、多くの場合、回答の含まれる情報資料を提供する。そのために膨大な時間をかけて資料を探す。あくまで利用者自らの研究を支援するために。そして、提供された文献や資料から、自分の知りたいことを時間をかけて調べていく利用者。時間がかかればかかるほど、わかったときの、見つけたときの喜びは大きい。自分で調べる時間のなんと貴重で豊かなことか。私は「レファレンス」を「あなたのお手伝い」と訳している。

図書館には、毎日、いつもと変わらない一日があたり前のように流れている。しかし、そこにある時間の流れと本の中の言葉は、実は「特別な一日」なのかもしれない。私は図書館でこんな言葉に出会った。「結局は、時間が解決してくれるのを待つしかないのだ。（中略）わかってはいるのだが、その重苦しい時間の経過をじっと耐えて待



つあいだが、なんともやりきれないのである（『大河の一滴』五木寛之）」「人は変わってゆくんだよ。それは、とても過酷なことだと思う。でもね、でも同時に、そのことだけが人を救ってくれるのよ（『昨夜のカレー、明日のパン』木皿泉）」気分は正反対だが、要するに『時

がすべてを解決してくれます』ということ。今は苦しくても、新型コロナウイルスもきっと時が解決してくれる……。図書館で過ごす時間は、私にいつも素敵な言葉を与えてくれ、いつもと変わらない今日を特別な一日にしてくれるのだ。

県立図書館の新型コロナウイルス感染拡大防止のための取組 その1

<館内における感染防止策>

令和2年1月15日、ついに日本国内でも新型コロナウイルスの感染者が確認されました。その後、またたく間に感染は広がりを見せ、日本中が未知のウイルス襲来に不安な日々を過ごすこととなりました。

県立図書館では、利用者の皆さまに少しでも安心してご利用いただけるよう、1月末から手指消毒液を設置し、咳エチケットや手洗いを励行していましたが、3月2日に愛媛県内でも感染者が確認されると、一気に緊張感が高まりました。

公立学校は臨時休校となり、県民の皆さまにも外出自粛をお願いしている状況において、県立図書館でも、主催イベントをすべて中止することとなりました。しかし、私たちは県立図書館の図書資料が、少しでも皆さまの在宅時間を有意義に過ごすための手助けになればと、これまでの対策に加えて、マスク着用のお願ひ、定期的な全館一斉換気の実施、閲覧席及び学習室の座席数の削減といった感染防止策を徹底して開館を続けることとしました。

その後、緊急事態宣言下の臨時休館(4月14日～5月10日)を経て、各カウンター及び閲覧席に飛沫感染防止シートを設置するなど、さらなる感染防止策を実施し、5月12日から図書館を再開することができました。

今後も、知の拠点として、安心・安全な図書館づくりへの努力を続けてまいります。

(庶務担当 津田 順平)

<館内写真 各階カウンター飛沫感染防止対策>



床サイン



1階子ども読書室



3階一般図書室



4階えひめ資料室

<図書館未設置町の児童・生徒への読書活動支援>

令和2年3月、県内の学校においても新型コロナウイルス感染拡大防止を図る臨時休校が順次始まりました。愛媛県教育委員会は、児童・生徒への支援策の一つとして読書活動の機会を提供することになりました。これは、学校等を通じ公共図書館の図書を貸し出しするもので、活動に制限が生じた子どもたちの心の安定を図ることがねらいでした。

県立図書館には、図書館未設置町である上島町、鬼北町、松野町、愛南町から要望があり、計1,885冊の図書を各教育委員会に送りました。

上島町からの申込みは小学校1校4名と少人数だったため、図書館職員が図書を選び、計20冊を貸し出しました。鬼北町には、町内の全小中学校(小学校7校326名、中学校2校138名)に計1,070冊を貸し出しました。松野町と愛南町は各教育委員会から希望があり、松野町に490冊、愛南町に305冊の図書を貸し出しました。突発的に必要となったこれらの大量な資料には、協力図書(登録団体に一括してまとまった冊数の図書を貸し出すサービス)用の資料が力を発揮しました。

後に、支援の様子を掲載した町の広報誌や返却図書に添えられたメッセージから、子どもたちに本が届いた様子を垣間見ることができました。本とのひとときが、子どもたちにとって少しでも心安らげる時間になったならば、とても嬉しく思います。

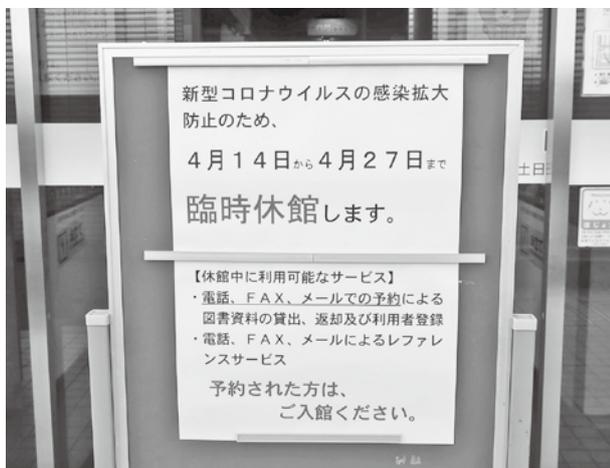
支援に当たっては、刻一刻と状況が変化する中、各教育委員会や小中学校の先生方には多大なご尽力をいただきました。誌面をもって、改めて感謝申し上げます。

(読書振興グループ 伊井 友世)

県立図書館の新型コロナウイルス感染拡大防止のための取組 その2

<臨時休館中のサービス>

当館では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月14日から5月10日までの4週間にわたり臨時休館しました(翌日は月曜休館)。当初は4月27日までの予定でしたが、感染状況を考慮し、5月6日まで延長、更に5月10日まで再延長されました。休館中は、1階子ども読書室、2階学習室、3階一般図書室、4階えひめ資料室すべてを閉鎖し、利用者の皆さまには、大変ご不便をおかけしましたが、一部のサービス提供は継続しておりましたので、その概要をご紹介します。



玄関前の掲示

【休館中に提供したサービス】

- (1) 電話・FAX・メールでの予約による資料貸出
- (2) 資料返却(原則、返却ポスト利用)
- (3) 利用者登録(要予約)
- (4) 電話・FAX・メールによるレファレンスサービス
- (5) 電話・FAX・メールでの申込みによる資料複写
- (6) 図書館等への資料貸出

※(5)は、5月8日～10日のみの提供

上記(1)～(5)のサービスは、1階ロビーに設けた臨時カウンターで提供しました。臨時カウンターには2名の職員を配置して対応にあたり、電話やFAX、メールで寄せられる予約や問合せ等には、子ども読書室、一般図書室、えひめ資料室の各窓口で対応しました。複写サービスは、利用者の要望を受けて、終盤のわずかな期間でしたが提供しました。



臨時カウンター

臨時カウンターは、ビニールシートで仕切りました。来館した利用者の皆さまには、手指消毒をお願いして、滞在時間なるべく短くすむような対応を心がけるとともに、感染の事態を想定し、その都度、対応した職員名を記録するようにしました。

また、返却日が臨時休館中にあたる場合は、再開後1週間の猶予期間を設けました。

これに先立ち、県内公共図書館の休館状況を聞き取り調査し、4月9日から当館ホームページで公開、随時更新を続けました(5月27日最終更新)。

【臨時休館中の利用状況】

	4月	5月	計
臨時窓口対応日数(日)	14	9	23
来館者(人)	320	264	584
借出登録(人)	9	7	16
貸出冊数・一般書(冊)	663	399	1,062
貸出冊数・児童書(冊)	645	371	1,016
複写枚数(枚)	-	621	621
複写件数(件)	-	6	6
レファレンス・口頭(件)	42	25	67
レファレンス・電話(件)	263	150	413
レファレンス・文書(件)	3	3	6
レファレンス・メール(件)	40	43	83

※複写サービスは、5月8日～10日のみ実施。

※レファレンス・口頭は、臨時窓口での受付件数。

※レファレンスの電話・文書・メールは子ども読書室、一般図書室、えひめ資料室での各受付件数の合計(資料予約を含む)。

(相談グループ 橋 可奈子)

この1年の図書館の動き **その1**

<「子育て支援情報コーナー★ミニ」の設置>

令和元年9月28日、子ども読書室に「子育て支援情報コーナー★ミニ」を開設しました。3階一般図書室「子育て支援情報コーナー」の縮小版として、小児医療や離乳食など、子育て関連の図書を0類(総記)から9類(文学)まで満遍なくコンパクトに集めたコーナーです。生活に密着した情報を手軽に手にできる場を提供し、さらに3階同コーナーの利用につなげることが目的です。

令和2年6月現在、約80冊を配架しており、よく手に取られ、貸出利用も多く、徐々に利用者の方々に定着してきたと感じています。また、関連するチラシの配布に協力できることを県職員向けに広報したところ、複数の課から依頼があり、地域の情報も発信できるようになりました。

ふと目にした本での発見が、豊かな毎日につながれば幸いです。



<子ども読書室の書架を新調しました！>

令和元年9月24日、子ども読書室の社会科学から自然科学にわたる書架3台を新調しました。資料をより見やすく配架することで利便性を向上させ、利用の促進を図ることがねらいです。

50年以上使用してきたこれまでの書架は棚に十分な高さがなく、B5版より大きな資料は横倒しの状態でした。そのため書名のある背が隠れ、資料が探しづらいことが長年の課題でした。



新しい書架は立てて配架できる資料が増え、1冊1冊の背表紙の書名を確認しやすくなりました。さらに、天板上部は表紙を見せて配置できる構造のため、視覚的に本への関心を促す効果も高まりました。今後も、より使いやすい環境づくりに努めてまいります。

(読書振興グループ 伊井 友世)

<1階ロビーに県立図書館紹介コーナー新設>

図書の収集や提供だけではない、県立図書館の活動を紹介するためのコーナーを、令和2年5月から1階ロビーに設置しました。

県内の学校等での活動の様子や児童生徒からのお礼状、当館が所蔵する特色ある資料(課題解決支援のための図書、50年にわたり刊行を続けている「愛媛文化双書」、県出身者の図書等)の案内、3代にわたる図書館の建物写真等をご覧いただけます。



<多言語コーナー、ビジネスコーナーを移動>

令和2年5月、一般図書室内のコーナー及び資料を移動しました。

- ビジネス情報支援コーナー：目的の資料が読みやすく・探しやすくなるよう配置。
- 寄贈雑誌、電話帳：他の雑誌と連続して配置。
- 多言語図書コーナー：棚数が倍になり、日本文化を紹介する図書や日本文学の翻訳書、多読に役立つリーダーの選びやすさが向上。



ビジネス情報支援コーナー

多言語図書コーナー

愛媛新聞のホームページ内に「図書館の世界」が開設

令和2年7月、愛媛新聞社のニュースサイト「愛媛新聞ONLINE」内に、県内図書館の情報を一堂に集めた「図書館の世界」が開設されました。

利用情報ははじめ、各館の司書によるコラム、イベント案内が随時更新されます。

県・市・町・大学と、館の垣根を超えた図書館の総合ページは全国でも珍しく、多くの方々に楽しんでいただきたいと思います。

愛媛新聞 ONLINE <https://www.ehime-np.co.jp/>
※図書館の世界

メニュー > ENJOY > 図書館
<https://www.ehime-np.co.jp/online/enjoy/library/>

(相談グループ 木下 和幸)

この1年の図書館の動き **その2**

<4階ロビー展示「真鍋博のカバーイラスト 文庫本」>

4階ロビーでは、令和2年7月1日から11月26日まで「真鍋博のイラストカバー 文庫本」展示を行っています。新居浜市出身のイラストレーター真鍋博(1932～2000)は、没後20年。愛媛県美術館の特別展「真鍋博 2020」に先駆け、当館では、真鍋博のイラストがカバージャケットに使われている、星新一などの文庫本約200冊を、当館特別コレクションの「真鍋博コレクション」から選び、展示しました。

昭和40年代・50年代に手にした文庫本を、なつかしく振り返り、真鍋博の多様なイラストをご覧いただきたいと思います。



当館の「真鍋博コレクション」は、真鍋博の生前・没後にご寄贈いただいた図書や雑誌の印刷物(原画等

は愛媛県美術館に寄贈)を中心に、イラスト・著作・諸活動の全業績を網羅し、現在約28,000点の資料があります。平成27年度(2015)から一般公開を開始しています。

(図書整理グループ 柚山 紀子)

<子ども読書活動推進事業>

「ブックトーク」

「子ども読書活動推進事業」の一環として、当館職員が県内の学校を訪問してブックトークを行っています。

ブックトークでは、「夏」「友情」など、学校の希望するテーマに合わせた本を職員が複数選び、全体のつながりを大切に構成して紹介します。また、「メディカルトーク」(命)、「エコ・トーク」(環境)、「ヒューマントーク」(国際理解)など、県内の関係機関と協力して開催するブックトークもあります。

令和元年度は、小学校8校、中学校2校、高校2校、特別支援学校3校で実施しました。今後も、新しい本との出会いをお手伝いできれば幸いです。



「読書ボランティア等スキルアップ事業」

子どもの読書活動を推進するリーダー的人材の育成を目指して、元年度から二つの講座を開催しています。

「読書ボランティアアビギナーズ講座」は、これから読書ボランティアを始めようと思っている方や初心者の方対象の講座です。



絵本の選び方や見せ方など、基礎的な技術を学びます。「読書ボランティア等スキルアップ講座」は、既に読書ボランティアとして活動されている方が新たな技術を身に付けたり知識を深めたりできる講座です。ストーリーテリングやわらべうたなど、本の世界の楽しさを改めて感じられる内容です。両講座とも、実演も交えて共に楽しむひとときとなりました。

「おでかけ県立図書館 in 松野西小学校」

おでかけ県立図書館事業は、図書館のない地域の皆さんに、図書の展示や貸出、レファレンス(調べもの支援)等、図書館サービスを体験し、読書の契機にさせていただこうと、4年前から始めました。これまでは住民センターや公民館等へ「おでかけ」してきましたが、元年度は、初めて学校で開催しました。



2月12日、松野町立松野西小学校を会場に、松野東小学校や虹の森保育園の子どもたちも参加して、県立図書館所蔵の図書

の借出体験をしました。友達と相談したり、司書に質問したりして、熱心に本を選ぶ姿が印象的でした。

また、職員が、年長組と1～3年生に絵本の読み聞かせや紙芝居の実演、4～6年生にはブックトークを行いました。



(読書振興グループ 東 智子・石川 幸代)

資料紹介、出版物

<愛媛新聞データベースと新聞マイクロフィルム>

令和2年4月から新たに愛媛新聞データベースを導入しました。1992年5月から現在までの新聞記事を、キーワードや日付で検索することができます。本文だけでなく、紙面全体のイメージ画像や切り抜き(2011年2月以降)での表示ができるので、写真や図表も確認することができます。ただし、著作権が愛媛新聞社または共同通信社に帰属していない記事(小説など)は、閲覧することができません。また、プライバシー保護や人権にかかわる事件・事故、裁判記事については、社会的影響力の高い記事を除き、個人名や地名などを匿名化しています。コピーをとることもできますので、3階一般図書室または4階えひめ資料室でご利用ください。

また、4階えひめ資料室では1876年9月の海南新聞から現在の愛媛新聞までをはじめとした、古い郷土新聞のマイクロフィルムを閲覧することができます。マイクロフィルムリーダーは2台ありますが、印刷ができる機械は1台のみです。先着順にご案内いたしますので、カウンターにお声掛けください。

(図書整理グループ 小笠原 梢)

<子どもにがんを伝える本 第2版>

今年5月に、「子どもにがんを伝える本 第2版」を発行し、当館ホームページで公開しました。このリストは、平成28年2月に四国がんセンター患者・家族総合支援センターと共同で開催した「図書館で“がん”を学ぼう!」に合わせて作成し、4年ぶりに改訂したものです。

がんについて解説した子ども向けの本や闘病記、物語や絵本など122冊を収録し、発行年の新しい順に、それぞれの本の内容や、がんの種類、対象年齢等を付して、一覧にしました。当館に所蔵していない資料も含まれています。

初版発行後の28年12月に「がん対策基本法」が改正され、がん教育に関する文言が新たに盛り込まれました。また、29年3月に小・中学校、30年3月に高等学校の学習指導要領がそれぞれ改訂され、中

学校及び高等学校においては、がんについて取り扱うことが新たに明記されました。

こうした中、当リストを子どもたちががんを知るきっかけにもらえればと考え、5月30日から7月30日までの間、リストの中で当館が所蔵する本を展示し、実際に手に取っていただく機会を設けました。(相談グループ 橋 可奈子)

<「赤ちゃんは絵本が大好き!」 ～読書ボランティアはじめませんか?～>

絵本は、赤ちゃんが最初に出会う本です。保護者や読書ボランティアの方に向けて、パンフレットを作成しました。おすすめの絵本やわらべうた、おはなし会のプログラム(当館での実践例)も載せています。赤ちゃんとの暮らしの中に取り入れていただくと幸いです。



<「探検しよう!本の国2020」>

2004年版から続く推薦図書リストです。書評雑誌等で取り上げられた前年発行の図書を中心に200冊以上を読み比べ、乳幼児、小学校低・中・高学年、中・高校生向けと5種10冊ずつ、合計50冊を選び、書評文も職員が書いています。

<購入児童図書公開>

前年中に発行された児童図書約2,000冊を一室に集め、4～5月の2か月間、公開しています。学校図書館関係者等の選書支援が目的で、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館期間を考慮し、6月末まで公開しました。



(読書振興グループ 東 智子)

愛媛県立図書館の利用案内

【開館時間】

火曜から金曜…午前9時40分から午後7時まで
土・日・祝日…午前9時40分から午後6時まで
子ども読書室…午前9時40分から午後5時まで

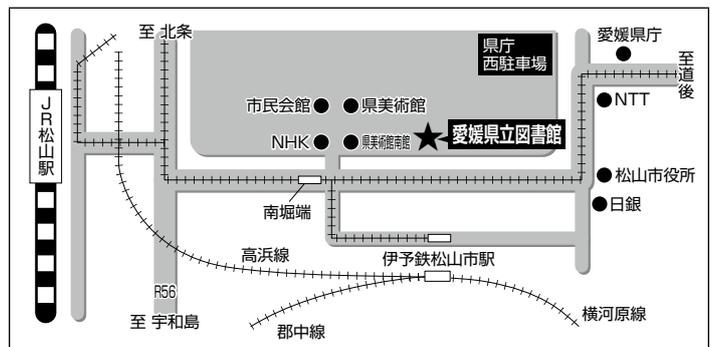
【休館日】

月曜日(祝日の場合は、直後の平日)
年末年始(12月29日～1月3日)
特別整理期間(10日以内で館長が定める日)
館内整理日(毎月末日、ただし、その日が上記休館日、土・日曜日に当たるときは館長が定める日)

【駐車場】

図書館専用の駐車場はありませんが、**県庁西駐車場**(旧国際交流センター跡地)を2時間ご利用いただけます。ただし、駐車台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関のご利用をお願いします。

<付近略図>



編集・発行 **愛媛県立図書館**

〒790-0007 松山市堀之内 TEL 089-941-1441(代表) FAX 089-941-1454
https://www.ehimetosyokan.jp e-mail:tosyokan@pref.ehime.lg.jp(代表)